

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.114 - 2018年6月

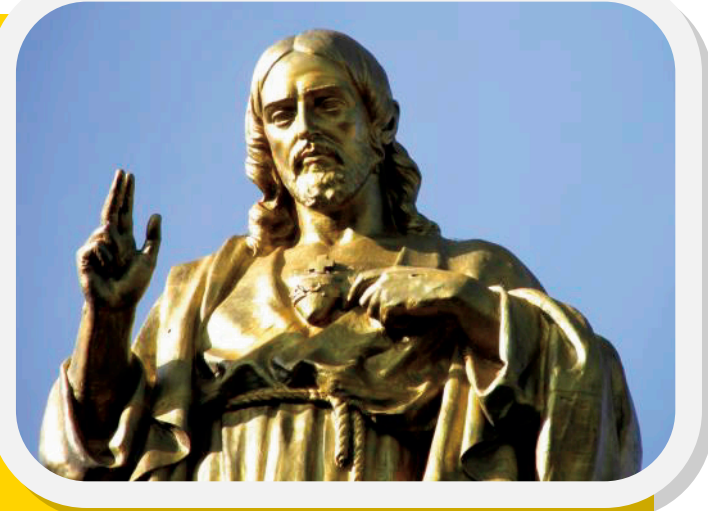


サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

## 私

たちの愛する父、ドン・ボスコによって建てられたイエスのみ心大聖堂からごあいさつを送ります。この愛すべきみ心に、私たちのすべての宣教師をゆだねます!

2019年10月の特別宣教月間は、私たちがその100周年を祝うことになる教皇ベネディクト十五世の使徒的書簡『マクシムム・イルド』から新たな光と推進力を汲むよう、助けてくれます。使徒的書簡の中心は、明らかにイエス・キリストです。このことは、ドン・ボスコのサレジオ会員である私たちに、私たちの会憲の基本的な条項、第11条を力強く明確に思い起こさせます:「サレジオ会精神は、御父の使徒であるキリストのこころを模範とし、源泉とする」。私たちは主の姿の特に二つの特徴 - 最も宣教的な特徴に数えられるかもしれませんが - を思い起こします。福音を読みながら、これらにより敏感に注意を向けることができるでしょう:「み国の到来の緊急性のもと、告げ知らせ、癒し、救うことに心を砕かれたこと、兄弟愛の交わりの一致のうちに弟子たちを集めようと望まれたこと」。実際、教皇ベネディクト十五世のこの書簡を、会憲のこの基本的な条項に照らして読むとき、大変励まされます。イエスのみ心の良い宣教の月を!



*J. Basanes*

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父

## 宣

教するアメリカ大陸から良い便りがありました。特にサンパウロ管区(ブラジル)の実り豊かな宣教週間のニュースです。チアゴ・エリオマル神父は書いています:参加者は、管区の学校、大学、小教区の若者たちです。毎年、若者たちは管区レベルで「宣教週間」を開催し、青少年司牧全体に宣教の意味合いをもたらしています。

もちろん、若者たちの宣教活動は、この一週間の行事に限られるものではありません。教育活動を行うさまざまな共同体で、宣教のための養成の歩みがほかにも行われています。各グループは、成長の度合いに合わせて、それぞれの取り組みを行っています。例えば、この宣教促進の一環として、若い宣教ボランティアが一年間、海外に赴いています。この宣教のダイナミズムは、若者の司牧と召命に豊かな実をもたらすことが証明されました。今年、叙階される6人の司祭と終生誓願を立てる2人の修道士も、宣教精神とこれらの司牧的取り組みの実りです。

興味深い数字を紹介します:

7月14日から22日にかけて参加するのは:

- ・1050人の宣教師(そう、千と五十人です!)
- ・25の共同体(8つの小教区)
- ・7つの町:ヴォトゥボランガ、カナネイア、グアビアラ、カジュル、アグアイ、チャラケアダ、ピラングス
- ・18人のサレジオ会司祭
- ・55人の養成中のサレジオ会員または志願者

## アメリカ大陸からのその他の宣教情報

今度のアメリカ大陸宣教大会(CAM 5)は7月10日から14日にかけて、ボリビアのサンタ・クルスで開催されます。5,000人以上の代表者が参加する予定です。アメリカ大陸の管区宣教促進担当者の多くも参加します。

サレジオ・パン・アマゾン会議「シノドスは挑戦を投げかける」の準備が進められています。アマゾン地方に宣教地を持つ諸管区が関わっています。会議は11月1日から4日にかけて、マナウスで開催されます。この非常に特別な地方での一世紀以上にわたるサレジオの存在の、司牧的、科学的、教育学的な遺産、あかしの遺産を一堂に集めるため;この地方の現在の社会・政治的、経済的な状況、教会とサレジオ会の状況を読み取るため;未来に向けて提言を行うための、貴重な機会となるでしょう。最後に、先住民族出身の宣教師、司牧の担い手たちが、2019年のパン・アマゾン・シノドスのために提言を準備することになります。



ブラジル、サンパウロ:  
宣教週間のために  
1,050人の宣教師

## 「宣教師であることは、天の贈りもの」



私

は1930年、マドリードの信仰熱心な家庭に生まれました。1945年の四旬節、私は『志願する人々』という本を手にししました。それは宣教師たちの物語で、召命についての説明も数ページにわたって書かれていました。私は好奇心からその本を読み、すぐに心を奪われました。その本は、思いがけず魅力に満ちた地平を私の前に開いてくれました。イエスに従い、イエスの福音を広めるためにさざげられた人生の価値を、私は発見しました。本を読んだ後、学校の聖堂へ行き、聖櫃のそばでひざまずいたとき、イエスの使徒たちへの言葉を思い出しました：「私に従いなさい」。生涯にわたって福音を宣べ伝えた後、43歳で亡くなった聖フランシスコ・ザビエルを思い出しました。

修練期のとき、宣教地に派遣されることを志願しました。修道誓願を立てた翌日、管区長は派遣を認められた人々の名前を読み上げました。新たに誓願を立てた63名のうち、32名が南米に派遣されることが告げられました。私の名前はありませんでした。私は悲しくなりましたが、管区長は続けて言いました。「そして今年、新たに誓願を立てた会員の中、4名が日本へ派遣されます。」その名前が読み上げられました。3番目は私でした。衝撃的でした。私は食堂から聖堂へ直行し、感極まって泣きました。

私は1950年1月に日本に到着しました。後に、オペティエンツァによって韓国へ派遣されました。1962年3月30日、金曜日に韓国に到着しました。ソウル郊外の聖ヨハネ・ボスコ教会の助任司祭に任命されました。赴任した日の午後、信者たちは十字架の道行を行いました。全員が板張りの床にひざまずき、男性は右側、女性は左側に分かれ、教会の中央が通路のように空けられていました。十字架の道行の後、多くの人が夕の祈りのために残りました。翌朝のミサの後、多くの人が祈るためにとどまり、私たちは床に座って一緒に黙想をしました。

初めのところは大変でしたが、少しずつ、すべては天の贈りものだったと気づくようになりました。信者さんたちは、聖櫃の近く、床に座り、私たちに祈りの模範を示してくれました。また、忍耐、希望、喜びをもって貧しさにあずかる生活を生きるよう、私たちに助けてくれました。彼らは私たちをととても愛してくれました。私が直面した大きな挑戦の一つは言葉でした。すでに日本語を学んでいましたが、今度はより複雑な韓国語に取りかかりました。もう一つの挑戦は、キリスト者が今も人口の1割しかないことです。そして今もって朝鮮半島が二つの国に分断されていることに胸が痛みます。

私が経験した最も大きな喜びは求道者の受洗、修練生たちの修道誓願です。韓国の発展を目にするのも喜びです。かつてはとても貧しい国でした。現在は、韓国人の勤勉な文化と組織力のおかげで、秩序、進歩、尊厳ある生活水準を見ることのできる国になりました。皆、豊かさをより貧しい国と分かち合おうとする気持ちをもっています。

宣教師になることを希望する若い人たちに思い起こさせたいと思います。個人の祈りの生活、喜びあふれる共同体生活、そして私たちのすべての活動の土台は、ご聖体のうちにまことに現存される「イエスの愛」です。毎日、ご聖体を訪問する必要があります。さらに、私たちは感謝のうちに、ドン・ボスコが教えてくれたように、おとめマリアへの信心を培い、ロザリオを祈ります。

私たちはほかの人々、特に貧しい人々の良い模範や教訓にいつも開かれた心で生きようとします。あるとき、一人の貧しい信者マシューは、福音を一言で要約するなら神父様は何と言いますか、と私に尋ねました。私はすぐにいくつかの本質的要素をあげながら説明を始めました。人の良いマシューは忍耐強く耳を傾けていました。最後に彼は言いました。「神父様、ちょっと長すぎない？」私は言いました。「そう、じゃあマシューさんだったらもっと手短かに何と言う？」マシューは言いました。「私にとって福音はこんなことです：人が右の頬を打ったら、左の頬を差し出さない。」

スペイン出身、韓国の宣教師 **ホセ=マリア・ブランコ**



### 福者 セフェリーノ・ナムンクラ

(1886 - 1905) は同胞のマプーチェの人々の苦しみ、苦悩、希望を自らのうちに体現していました。セフェリーノが子どものころ、マプーチェの人々は福音と出会い、賢明なサレジオ会員の教育者たちの導きのもと、信仰の賜ものを受け入れました。セフェリーノのこの言葉は、その生涯の計画を要約しています。「私は同胞の役に立つ者になるため、学びたい」。実際、セフェリーノは、勉強し、司祭になり、同胞のもとに帰り、最初のサレジオ会宣教師たちがそうするのを見たように、人々の文化的、霊的成長に貢献したいと願っていました。

### サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエルルイジ・カメローニ** 神父

ソーシャルネットワークが、  
連帯を育み、他者とその多様性への  
尊敬を育むものでありますように。



サレジオ会の宣教の意向

サレジオの存在があるところ、誰もが温かく迎えられ、ありのまま大切にされていると感じ、  
良い知らせの喜びを発見できる「家」がそこにありますように。

私たちは、社会的、文化的、宗教的な観点からますます多様性のある存在になっています。  
私たちは使命によって強く促されます。IT (情報技術) とソーシャルネットワークをも通して、尊敬をもって  
相手を迎えるよう、喜びあふれてあかしをし、良い知らせを告げるようにと。

